

旧車や愛車のレストア通じ自動車文化を醸成

奈良トヨタ

奈良トヨタ（菊池政社長、奈良県奈良市）は、旧型車や愛車のレストアを通じて、県内における自動車文化の醸成および自動車整備技術の伝承と人材育成に尽力している。

同社は、2004年に1962年式「コロナ」をレストアしたのを皮切りに、16年以降にレストア事業を本格化した。また自社のサービスエンジニアがレストアした車両の集大成を発信する自動車博物館「まほろばミュージアム」

を21年11月に開館し、入場料無料で広く地域住民や自動車愛好家に開放している。同ミ

ュージアムには、車検を経て公道を走行可能なレストア車を常時10台程展示し、62年式「クラウン」や67年式「スーブラ」など往年の名車を披露してきた。

また同社におけるレストア作業は、ベテランと若手のエンジニア、板金・塗装スタッフの混成チームで実施しており、若手エンジニアへの技術伝承の場と位置付けている。レストア事業とミュージア

ムの運営を継続する中で、これらの取り組みが地域に果たす役割が拡大してきている。自治体との共同イベントにお

けるレストアカーパーレード走行の実施に加え、多くの自動車ユーザーからのレストアに関する要望に応えて23年4月に一般ユーザー向けレストア事業を開始するなど、同社のレストア技術を通じて多くのユーザーが旧車や愛車を長く楽しめる環境が醸成されつつある。

同社のレストア事業には、若手エンジニアが自ら希望して参加し

整備技術の伝承と人材育成にも尽力

ており、各パーツを分解、修復、再度組み立てるプロセスでベテランエンジニアから多くを学んでいる。この事業への参加を目的に入社する整備士も生まれるなど、自動車整備の魅力発信と人材育成にも寄与している。

【受賞者コメント】

この度は第3回クルマ・社会・パートナーシップ大賞において、自動車ユーザー連携賞を受賞することができ、弊社社員一同大変嬉しく思います。博物館運営やレストア事業は、地域の皆様と自動車を通じて接点を持たせて頂くことができる大切な事業です。また整備士のモチベーション向上や技術の伝承に寄与しています。今回の受賞を機に今後ますます地域の自動車文化醸成や整備士の育成に貢献して参りたいと考えております。

